

第2回 11月22日(火) 【都市像ごとの検討】

※主なご意見をまとめたものです。

“都市と自然が調和する新しいまちづくり”グループ

『大好きな自分のまちに住み続けるために』

市民の声を反映しやすいまちづくり

- 地域コミュニティの活性化
- 町内会のまとまりで助け合い(防災・防犯)

防災体制の充実

- FM局を活用した防災情報の提供
- 災害時の防災プランの必要性

大好きな自分のまち!

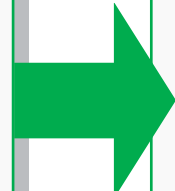
- 町の風景は、そこに住む人たちの顔である。
- 川が育む街の文化づくり(パリやロンドンのように)

市民団体の横のつながりが必要

- 各団体は、一生懸命だが、横のつながりが弱い。

学校をいかにしたコミュニティづくり

- 学校と地域のふれあいが必要。⇒図書館の開放等
- 自治会と学校の協力



第3回 12月3日(土) 【提言】

※主なご意見をまとめたものです。

“都市と自然が調和する新しいまちづくり”グループ

『大好きな自分のまちに住み続けるために』

◎市民意見を反映する仕組みづくり

- テーマごとワークショップの開催
- 多様な方法で市民意見の情報発信
- フィードバックの繰り返しが大切

◎人が集まる場所を活かします

- 各区の核を「まちなか」につくる。
- 行政が「まちの中心市街地」に出てくるサテライト行政

◎安心・安全のまちづくり

- 災害時に向けて、定期的に訓練や集まりを継続的に行う。
- FMがとても有効な働きをしている。

◎学校の区割りを生かした地域づくり

- 地域コミュニティ組織を立ち上げ、地域の状況を知り、近所と助け合える付き合いが必要。
- 子どもに安心なまちづくり。地域が一体となって防犯活動等を行う。

◎各区の情報を共有します

- 新・新潟市の一体感ネットワークづくり



“にぎわいのある魅力的なまちづくり”グループ

『スローライフ・スローフードのまちづくり』

自然環境の悪化

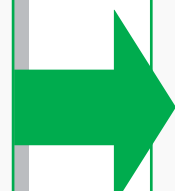
- 里山の開発が進み、緑が少なくなっている。
- 小川がなくなり、小魚・トンボ・蛙等がいなくなった。
- 能代川の水が汚い。

車中心の社会から人中心の社会へ

- 歩行者にやさしい雪対策が必要
- その場限りの開発により、生活環境と調和していない。
- せまい農道が、一般車道化しており、役割をはたしていない。

電車から自転車のアクセス改善

- 能代川沿いのサイクリングロードは非常によい。
- 自然を見ながら家族で楽しめるサイクリングロードの充実



“にぎわいのある魅力的なまちづくり”グループ

『都市と自然の調和するまちに』

◎希望の持てる「明るい農村」づくり

- 売れる農産物づくり(戦略的農業)
- 農業を基盤とした自立した地域づくり
- 段階的に農業に関わる仕組みづくり ⇒ 「体験農業」「大規模市民農園」「農地解放」
- 不必要な農地開発の回避(農村・田園の保全)

◎人にやさしく「住みよい・住みたい」まちづくり

- 人の暮らしをサポートする道づくり(歩道・自転車)
- 住民の暮らしを考えた街づくり ⇒ 行政・市民一体となったまちづくり
- 近所づきあいが生む安心・安全のまち ⇒ 防災・防犯
- 公共交通機関の整備 ⇒ コミュニティバス・車両の相互利用
- 標識・案内板の充実 ⇒ 人の目線で
- 快適な時間を過ごす拠点ネットワーク ⇒ 散策路・公園・広場、電柱のないまちを!
- 商店街の活性化 ⇒ チャレンジショップ、大学との連携等

